

第 114 回 2020 年 4 月投資家アンケート調査結果

アンケート調査にご協力下さりました皆様

4月に実施致しましたアンケート調査にご回答下さり誠にありがとうございます。このたび調査結果をまとめましたのでお送りさせていただきます。ご笑覧賜れましたら幸いです。今後もアンケート調査にご協力いただけるようお願い申し上げます。

2020年 6月 8日 青山学院大学 経営学部 教授 亀坂安紀子
明海大学 経済学部 教授 新井啓

調査の概要

今回の調査では、4月1日以降337通の調査票を発送した。送付先の内訳は、銀行・生損保74通、証券会社102通、投資信託・投資顧問120通、その他41通である。4月27日までに返送された23通にもとづいて本アンケートの結果を紹介する。回答率は6.8%、平均回答日は4月11日であった。過去4回の回収状況は以下の通りである。

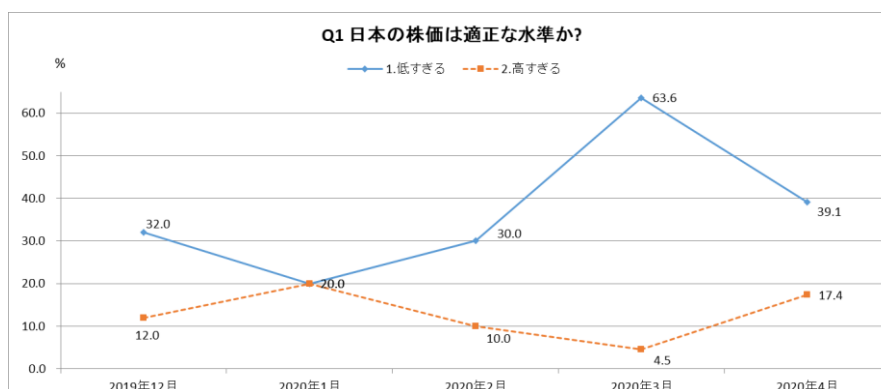
発送開始日	発送数	回答数	回答率
2019/12/2	345	25	7.2%
2020/1/6	344	25	7.3%
2020/2/3	341	20	5.9%
2020/2/28	341	22	6.5%
2020/4/1	337	23	6.6%

定期調査の質問の主要な結果

1. 日本の株価を企業のファンダメンタルズと比較してどう評価するか

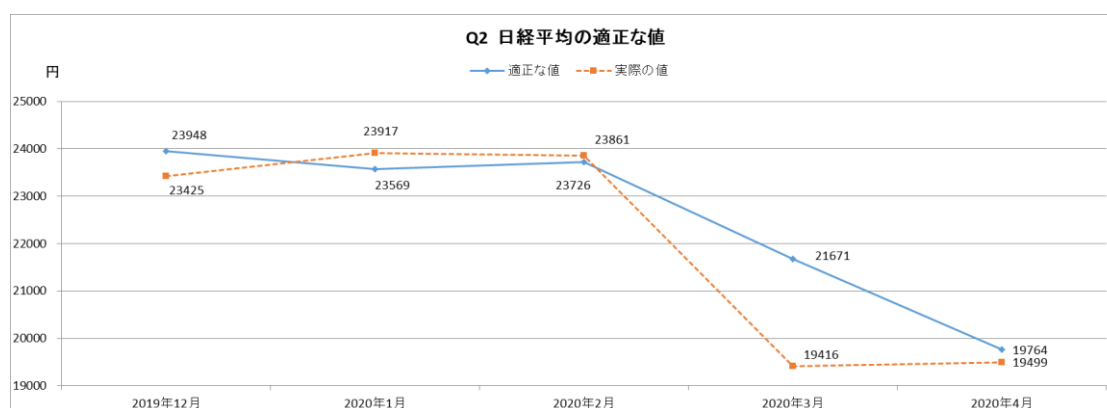
問1. 「日本の株価は企業の実力（ファンダメンタルズ）あるいは合理的な投資価値にくらべて、」

1. 低すぎる 2. 高すぎる 3. ほぼ正しく評価されている 4. わからない



今回の調査においては「1.低すぎる」の割合が大きく低下していたが、依然として40%近かった。「3.ほぼ正しく評価されている」の回答割合は26.1%であった。

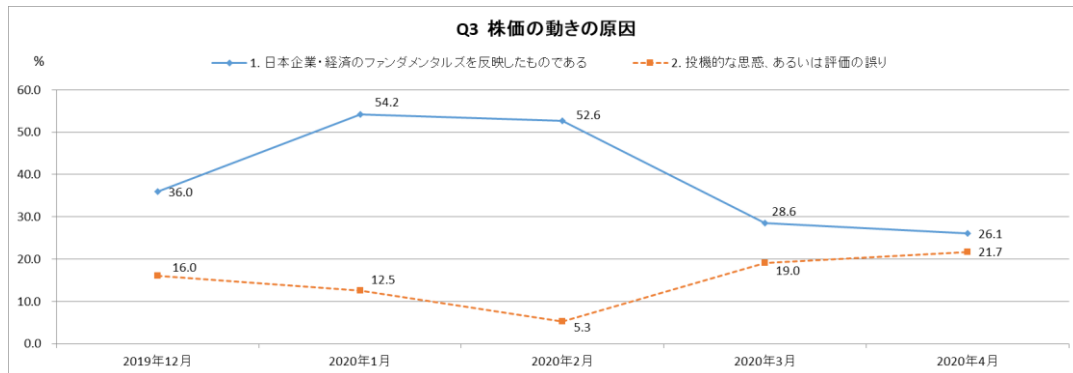
問2. 「日本の株価（日経平均）は企業の実力(ファンダメンタルズ)から見てどのくらいが適正な水準だとお考えですか。」



今回の調査においては、日経平均株価の「実際の値」は前回の調査からあまり変わらなかったが、「適正な値」は引き続き下落して「実際の値」とほぼ同一水準になっていた。

問3. 「過去6ヶ月間の日本の株価の趨勢的変化の要因はなんだとお思いですか。」

1. 日本企業・経済のファンダメンタルズを反映したものである
2. 投機的な思惑、あるいは評価の誤り
3. その他
4. わからない

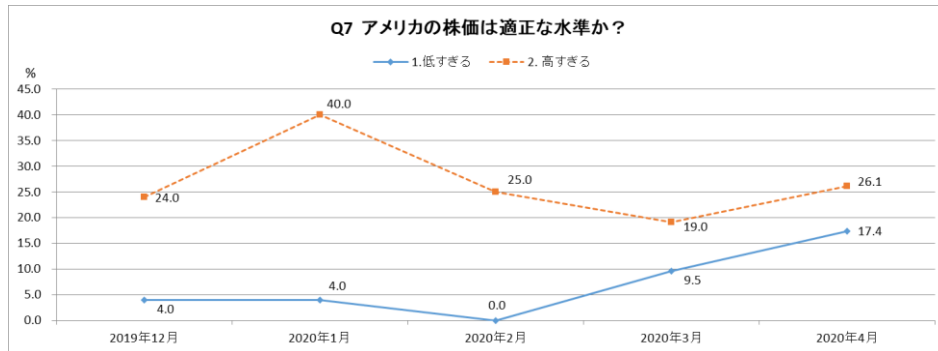


今回の調査においては「1. 日本企業・経済のファンダメンタルズを反映したものである」「2. 投機的な思惑、あるいは評価の誤り」のいずれの回答割合も前回調査とあまり変わらなかった。

2. ファンダメンタルズと比較してアメリカの株価をどう評価するか

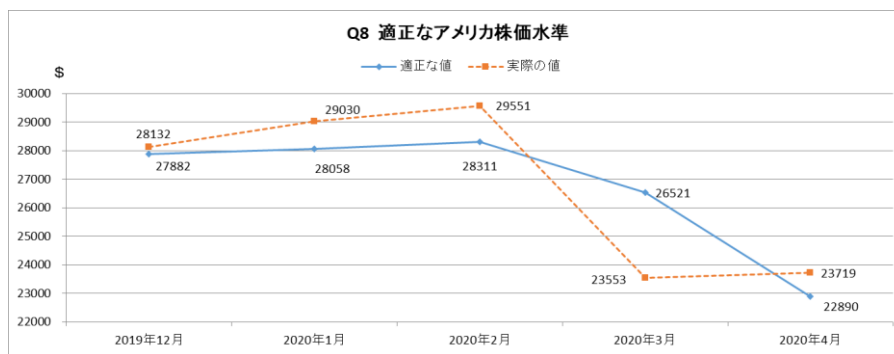
問7. 「アメリカの株価は企業の実力(ファンダメンタルズ)あるいは合理的な投資の価値にくらべて、」

1. 低すぎる 2. 高すぎる 3. ほぼ正しく評価されている 4. わからない



「3. ほぼ正しく評価されている」の回答割合は 47.8%であった。

問8. 「アメリカの株価 (NYダウ) は企業の実力(ファンダメンタルズ)から見てどのくらいが適正な水準だとお考えですか。」



NY ダウも日経平均と同様に、「実際の値」は前回の調査からあまり変わらなかったが、「適正な値」は引き続き下落して「実際の値」とほぼ同一水準になっていた。

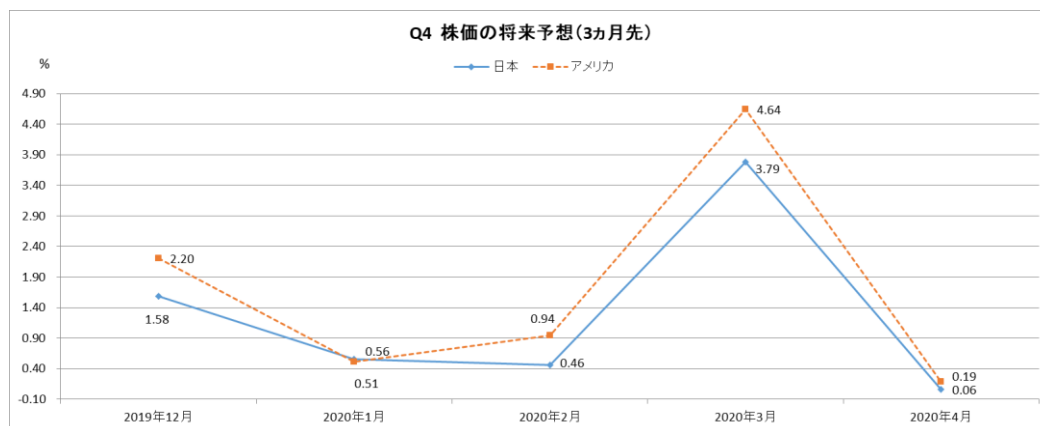
3. 株価の将来予想

問4. 「日米の株価が、将来どう変化すると予想されているか、現在を基準として%でお答えください。(上昇を予想される場合には+ (プラス) を、下降を予想される場合は- (マイナス) を、数値の前におつけください。)」

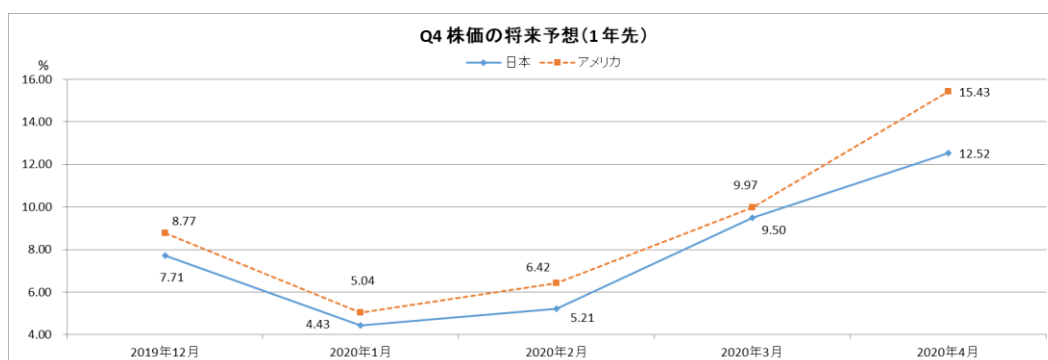
株価の先行き予想についての今回の調査結果は、以下の表のとおりである。(単位、%)

	日経平均株価 予想1ヶ月先	日経平均株価 予想3ヶ月先	日経平均株価 予想6ヶ月先	日経平均株価 予想1年先	日経平均株価 予想10年先
平均	-3.34	0.06	9.06	12.52	67.11
標準偏差	6.92	11.02	16.92	15.19	64.71
最小値	-20	-30	-10	-10	0
最大値	10	20	55	50	200
回答数	21	21	22	22	19
	NYダウ 予想1ヶ月先	NYダウ 予想3ヶ月先	NYダウ 予想6ヶ月先	NYダウ 予想1年先	NYダウ 予想10年先
平均	-2.69	0.19	8.80	15.43	108.68
標準偏差	9.46	14.71	17.25	15.46	122.58
最小値	-20	-40	-10	-10	20
最大値	20	30	55	50	500
回答数	21	21	22	22	19

日経平均株価についても、NYダウについても1か月先の予想の変化率の平均値がマイナスの値になっていた。



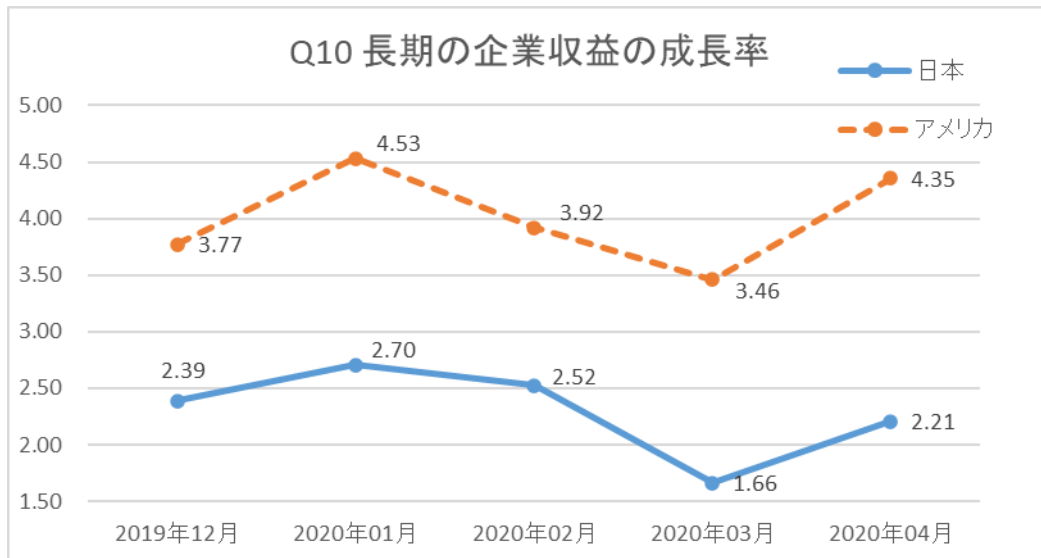
特に株価の3ヶ月先の予想変化率の平均値に注目すると、NYダウも日経平均株価も大きく下方修正されていた。



1年後の予想変化率の平均値に注目すると、3か月先とは異なりNYダウも日経平均株価も大きく上方修正されていた。

4. 長期の企業収益予想

問10. 「これから10年間の日本およびアメリカの企業収益の成長率は平均してどのくらいだとお考えですか。名目ではなく、インフレ分をひいた実質成長率でお答えください。」

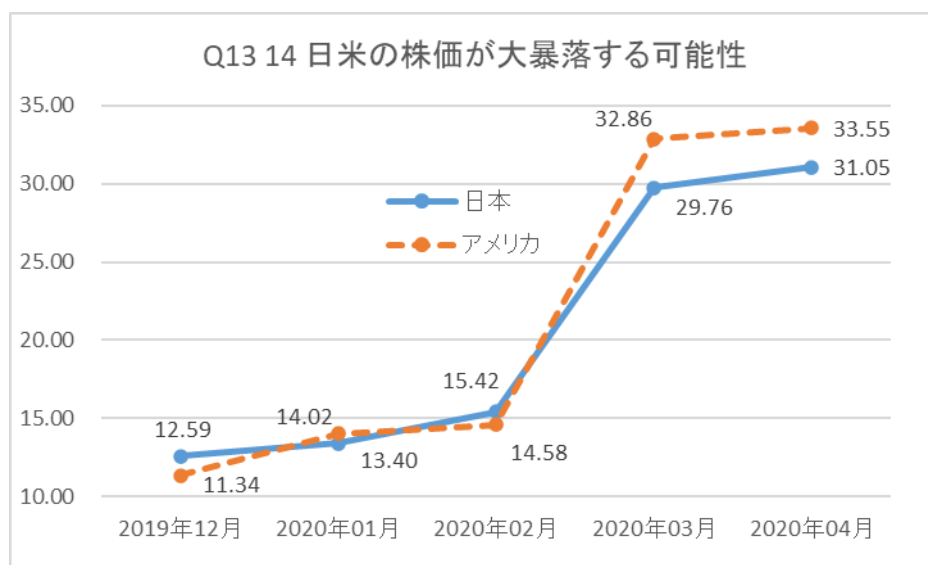


長期の企業収益の成長率の予想については、日本もアメリカも上方修正されていた。

5. 日米株価の安定性

問13. 「今後6ヶ月以内に、日本において、アメリカの1929年の恐慌や1987年のブラックマンデーのような株価の大暴落の起こる可能性はどのくらいあると思いますか。他国の市場で発生した暴落が伝播する場合も含めます。まったく起こらないと思えば0%、必ず起こると思えば100%というようにお答えください。」

問14. 上記の問をアメリカについて質問。

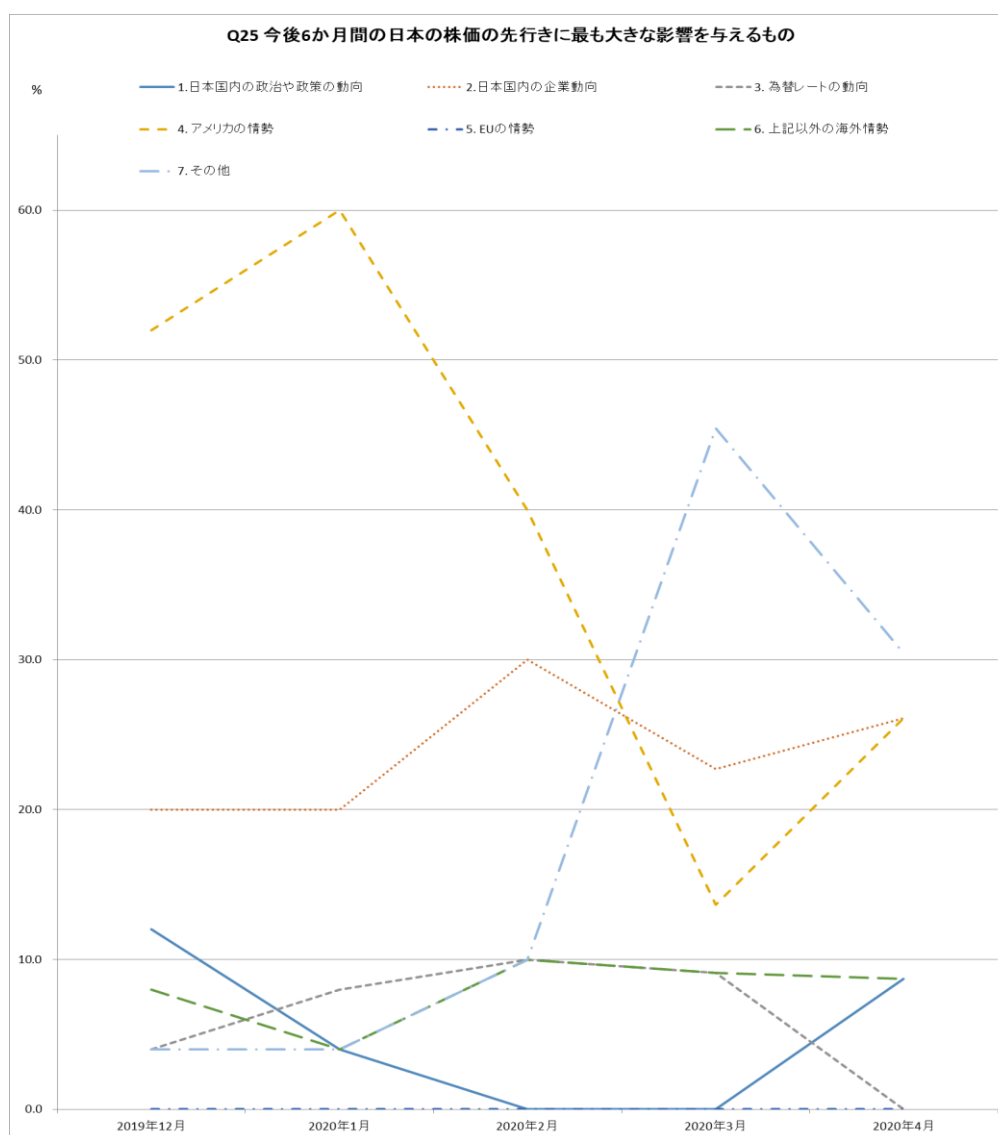


「株価が大暴落する可能性」は、日本もアメリカも高止まりしたままであった。

臨時（近年追加した）調査項目の集計結果

問25. 「今後6カ月間の日本の株価の先行きに最も大きな影響を与えるのは、次のどれだ
とお考えですか。」

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 日本国内の政治や政策の動向 | 2. 日本国内の企業動向 |
| 3. 為替レートの動向 | 4. アメリカの情勢 |
| 5. EUの情勢 | 6. 上記以外の海外情勢_____ |
| 7. その他_____ | |

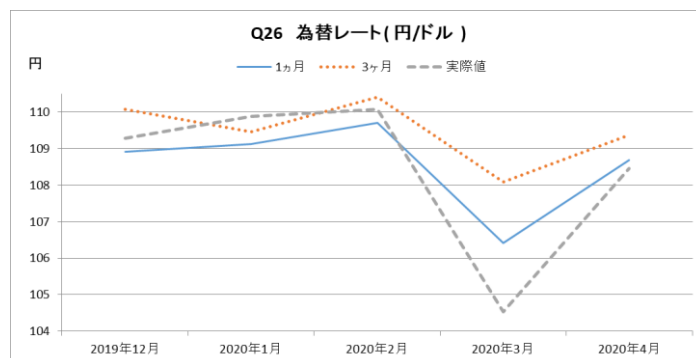


今回の調査においては「7.その他」の回答割合は前回調査よりも低下したものの、依然として高く30%台であった。掲載可能なコメントとして「世界的に通常的生活レベルに戻るのはいつかという不安」など、将来的な不安を挙げた回答もあった。

問26. 「1ヶ月先、3ヶ月先のアメリカドル／日本円レートはいくらぐらいになると予想されますか。」

1ヶ月先 1ドル= _____ 円

3ヶ月先 1ドル= _____ 円

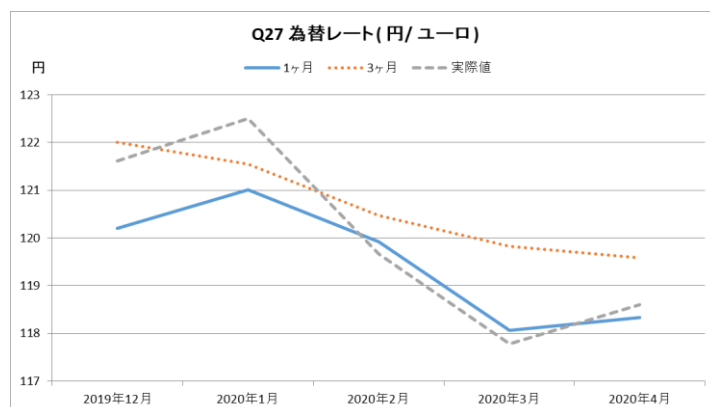


今回の調査においては、アメリカドル/日本円レートの「実際の値」は急激に円安方向へ修正されており、予想値も円安方向へ修正されていた。

問27. 「1ヶ月先、3ヶ月先の欧州ユーロ／日本円レートはいくらぐらいになると予想されますか。」

1ヶ月先 1ユーロ= _____ 円

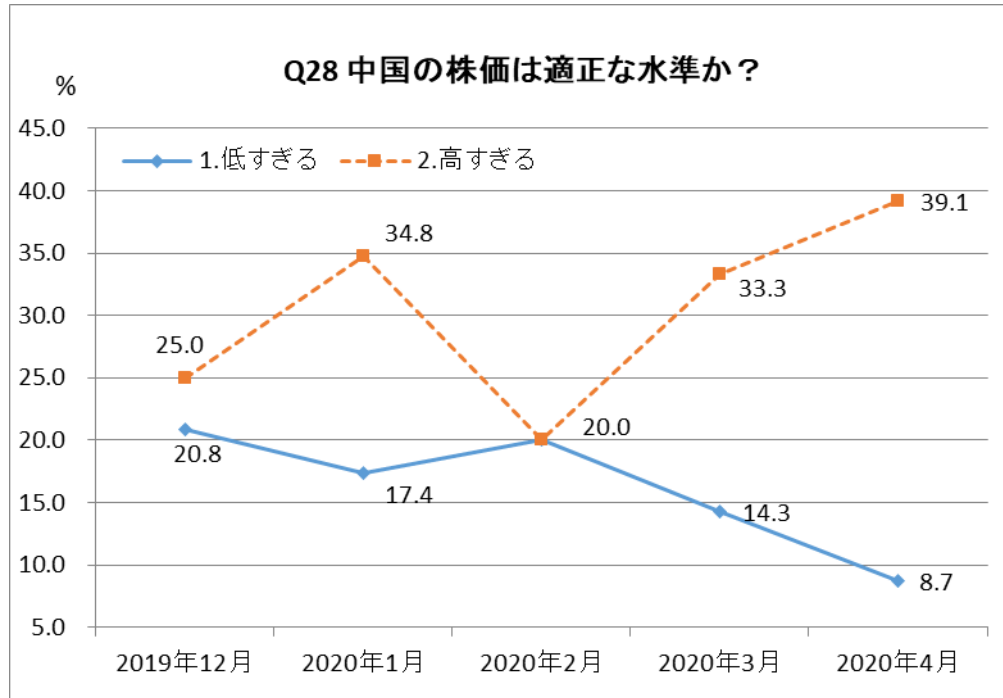
3ヶ月先 1ユーロ= _____ 円



ユーロ/日本円レートは3ヶ月先の予想値は円高方向へ修正されていたが、1ヶ月先の予想値と「実際の値」は円安方向へ修正されていた。

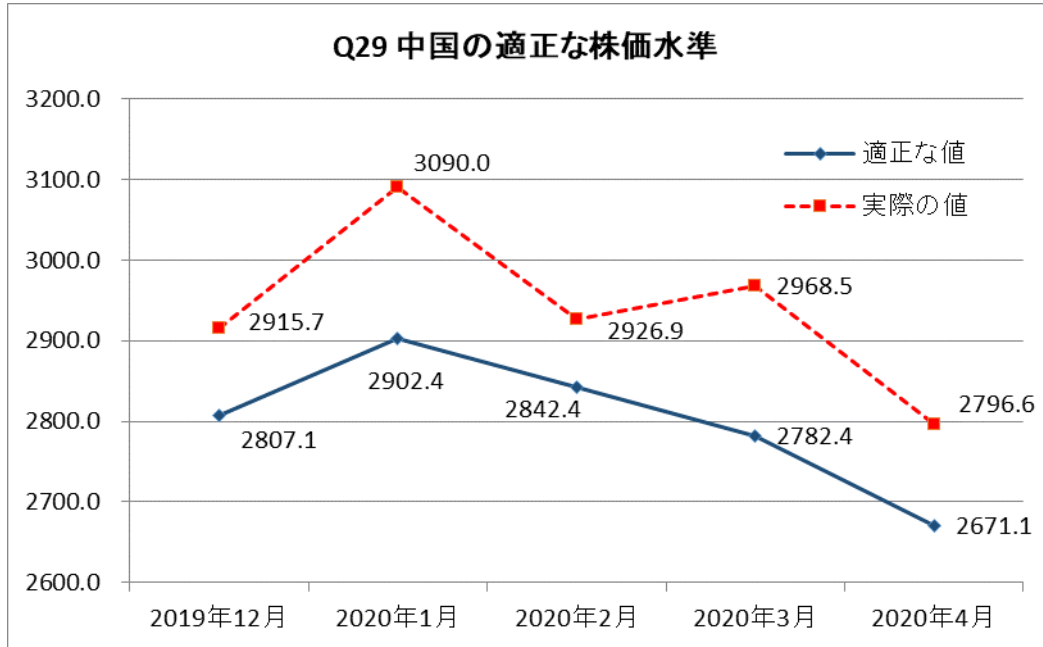
問28. 「中国の株価は企業の実力（ファンダメンタルズ）あるいは合理的な投資価値にくらべて、」

1. 低すぎる 2. 高すぎる 3. ほぼ正しく評価されている 4. わからない



中国の株価は企業の実力（ファンダメンタルズ）と比べて「2. 高すぎる」という回答の割合は上昇し40% 近くになっていた。

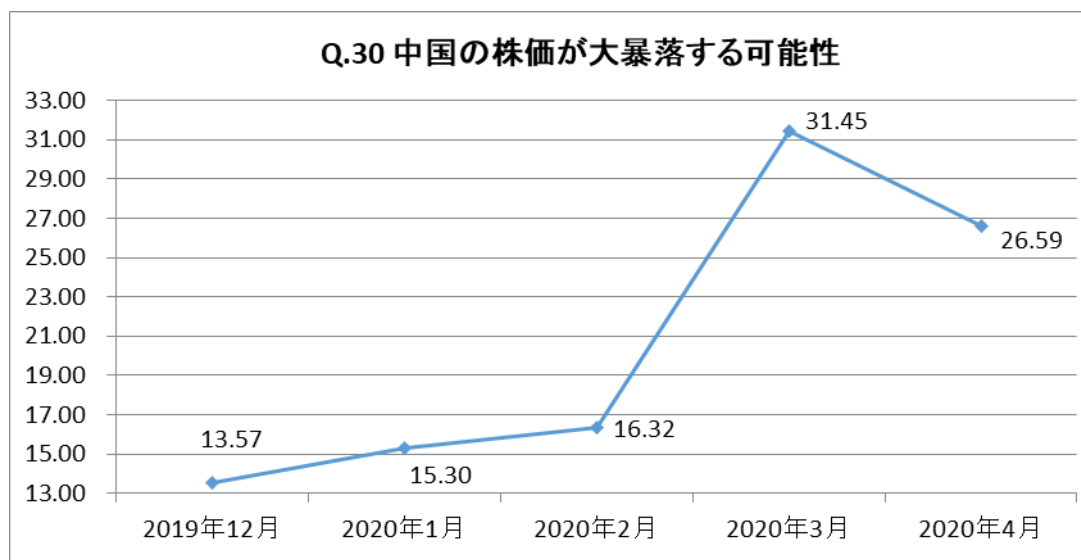
問29. 「中国の株価（上海総合指数）は企業の実力（ファンダメンタルズ）から見てどのくらいが適当な水準だとお考えですか。」



平均回答日における上海総合株価指数の「適正な値」は下方修正され、「実際の値」も前回調査と比較して下落していた。

なお平均回答日における「実際の値」は Bloomberg の Markets サイトより引用している。

問30. 「今後6ヶ月以内に、中国において、アメリカの1929年の恐慌や1987年のブラックマンデーのような株価の大暴落が（再び）起こる可能性はどのくらいあると思いますか。他国の市場で発生した暴落が伝播する場合も含めます。まったく起こらないと思えば0%、必ず起こると思えば100%というようにお答えください。」



「中国の株価が大暴落する可能性」は前回調査と比較して低下していたが、2020年2月調査と比較すると依然として高い水準であった。

自由コメントの紹介（掲載可能として頂いたコメントの要約）

問3の質問に対して、以下のコメントをいただいた。

- コロナウイルスのパンデミックで株価暴落。世界的な金融緩和と財政政策によって、リバウンド局面。
- コロナウイルスによる世界的リセッション

問25の質問に対して、以下のコメントをいただいた。

- ウイルスのオーバーシュート又はワクチンの開発成功

以上